

学術会議の次期会員候補

任命拒否の6人含めず

日本学術会議は十六日、総会を開き、九月に任期満了となる現会員に代わる次期会員候補者百五人を承認した。二〇一〇年に当時の菅義偉首相が任命を拒否した六人は含めていない。次期候補者に加えると政府の任命拒否を追認する」とになるため、「三年前の推薦を取り下げる理由はない」(梶田隆章会長)としている。

次期の会員候補に選んだ百五人については今後、岸田文雄首相に推薦する。総

会後の記者会見で、梶田氏は「学術会議は非常に難しい状況にある。学術会議の在り方を巡る問題の解決に向けて、新しい会員にも積極的に参加してもらいたい」と述べた。

政府は今後、学術界や経済界のメンバー十人程度で構成する有識者懇談会を設置し、学術会議の組織や運営の在り方をどう見直して

いくか議論する方針。学術会議関係者は参加できるが、正式なメンバーには入らない。総会では、懇談会とは別に、関係者を広く集めて自由に発言できる場が必要だとの意見が出た。

学術会議は科学者の代表機関とされ、会員は政府への政策提言や科学者同士の連携を深める活動を中心的に担う。会員は二百十人。任期は六年間で、三年ごとに半数を入れ替える。